

1 アンケート調査

(1) 調査の概要

この調査は、「第4次京丹後市障害者計画」及び「第7期京丹後市障害福祉計画」を策定するにあたり、障害のある人の実情やニーズ、さらには障害者施策への意見を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的に実施しました。

調査期間	令和4年12月1日～令和4年12月30日		
調査対象	(1) 京丹後市在住の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方 ⇒ 1,338人 ○身体障害者手帳所持者：551人(65歳以下全員) ○療育手帳所持者：468人(全数) ○精神障害者保健福祉手帳所持者：319人(全数) (2) 指定難病等により日常生活用具の給付を受けている方 ⇒ 5人 ∴ (1) + (2) = 1,343人 ※重複障害の人は1人1通を送付しています。		
	配布数	有効回収数	有効回収率
回収結果	1,343	542	40.4%

<調査結果の見方>

- 回答結果は、小数第2位を四捨五入しており、比率の合計が100.0%にならないことがあります。
- 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対してそれぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 設問の表題や選択肢について、一部簡略化している場合があります。
- 全ての設問を掲載しておりません。
- 前回調査は平成28年度実施。

(2) 障害状況について

■身体障害者手帳所持者の方へ 障害の原因は次のどれですか

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	疾病	83	33.6%
2	先天性（生まれつき）	62	25.1%
3	その他	45	18.2%
4	交通事故	11	4.5%
5	その他の事故	7	2.8%
6	労働災害	3	1.2%
	不明・無回答	54	21.9%
	サンプル数（%ベース）	247	100.0%

- ① 身体障害者手帳所持者の障害原因は、「疾病」「先天性」が前回と同様上位であるが、「交通事故」「その他の事故」「労働災害」3つを合わせて「事故」としてみると全体の8.5%（前回調査12.8%）となる。
- ② 「疾病」33.6%、「事故」8.5%の割合から約42%が中途障害となっている。

■あなたが受けている医療的ケアをお答えください

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	服薬管理	140	25.8%
2	その他	61	11.3%
3	透析	10	1.8%
4	カテーテル（留置）	9	1.7%
4	ストマ（人工肛門・人工膀胱）	9	1.7%
6	胃ろう・腸ろう	7	1.3%
7	気管切開	6	1.1%
7	吸入	6	1.1%
7	吸引	6	1.1%
10	人工呼吸器（レスピレーター）	5	0.9%
11	鼻腔経管栄養	2	0.4%
12	中心静脈栄養（TPN）	0	0.0%
	不明・無回答	318	58.7%
	サンプル数（%ベース）	542	100.0%

医療的ケアについては「服薬管理」を受けている方が前回同様第1位140件（25.8%）であり、前回（146件、26.3%）と近い状況である。

(2) 生活支援について

「暮らし方と家族」

■現在、あなたと一緒に暮らしている人は、どなたですか。※複数回答

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	家族	388	71.6%
2	施設などで共同生活	75	13.8%
3	一人で暮らしている	56	10.3%
4	その他	12	2.2%
5	病院に入院	5	0.9%
6	友だち・仲間など	4	0.7%
	不明・無回答	13	2.4%
	サンプル数 (%ベース)	542	100.0%

■ふだん、あなたを介助しているのは、どなたですか。※複数回答

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	家族	228	42.1%
2	介助は受けていない	182	33.6%
3	ホームヘルパーや施設・病院の職員	121	22.3%
4	その他	19	3.5%
5	友だち・仲間など	14	2.6%
6	ボランティア	2	0.4%
	不明・無回答	40	7.4%
	サンプル数 (%ベース)	542	100.0%

■あなたは、どこで暮らしていますか

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	持ち家（家族・親戚の持ち家も含む）	390	72.0%
2	入所施設	52	9.6%
3	民間アパート、借家（グループホームなど以外）、社宅	35	6.5%
4	グループホーム	26	4.8%
5	公営住宅（グループホームなど以外）	17	3.1%
6	その他	9	1.7%
	不明・無回答	13	2.3%
	サンプル数 (%ベース)	542	100.0%

■あなたは、今の暮らし方を続けたいですか

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	今のままでいい	395	72.9%
2	変えたい	103	19.0%
	不明・無回答	44	8.1%
	サンプル数 (%ベース)	542	100.0%

■どのような暮らし方をしたいですか（変えたいと答えた人の中で）

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	ひとりで暮らしたい	22	21.4%
2	家族と一緒に暮らしたい	21	20.4%
3	結婚して配偶者（夫または妻）と暮らしたい	19	18.4%
4	仲間と地域で共同生活がしたい（グループホームなど）	15	14.6%
4	その他	15	14.6%
6	入居型の福祉施設（障害者施設、高齢者施設など）で暮らしたい	11	10.6%
	不明・無回答	0	0.0%
	サンプル数 (%ベース)	103	100.0%

- ① 住居と家族状況については、家族と同居している人が71.6%と一番高い。次に施設などでの共同生活が13.8%となっている。
- ② 今の暮らし方について、「今のままでいい」という回答は全体の72.9%と、前回同様高い。
- ③ 「今の暮らしを変えたい」と答えた人のうち、63.1%は家族と同居の人であった。（103人中65人）

「求める支援制度」 手帳別・児童（18歳以下） 小数第1位を四捨五入

■現在の生活で困っていることや不安に思っていることがありますか

※複数回答

種別	1位	2位	3位	4位
身体	特にない	自分の健康や体力に自信がない	十分な収入が得られない	働くところがない
	55	41	32	26
	247	22%	17%	13%
療育	特にない	十分な収入が得られない	趣味や生きがいがない	将来の住まい(施設)
	44	35	20	18
	223	20%	17%	9%
精神	十分な収入が得られない	自分の健康や体力に自信がない	働くところがない	特にない
	27	25	20	16
	134	20%	19%	15%
児童	特にない	将来の住まい(施設)	必要な情報が得られない	その他
	12	7	3	3
	41	29%	17%	7%
全体	自分の健康や体力に自信がない	十分な収入が得られない	将来の住まい(施設)	特にない

■毎日の生活を送る上で特に必要な支援制度・サービスはどれですか

※複数回答

種別	1位	2位	3位	4位
身体	生活の場の確保(GH)	経済的負担の軽減	補装具の普及	権利擁護の普及
	43	36	20	17
	247	17%	15%	8%
療育	生活の場の確保(GH)	施設における生活の充実	権利擁護の普及	経済的負担の軽減
	80	37	14	13
	223	36%	17%	6%
精神	生活の場の確保(GH)	権利擁護の普及	経済的負担の軽減	相談支援体制の充実
	19	17	16	16
	134	14%	13%	12%
児童	生活の場の確保(GH)	権利擁護の普及	補装具の普及	相談支援体制の充実
	12	5	4	4
	41	29%	12%	10%
全体	経済的負担の軽減	相談支援体制の充実	生活の場の確保(GH)	施設における生活の充実

- ① 日常生活で困っていることについては、3手帳とも「十分な収入が得られない」が上位になっている。特に「精神」については、第3位に「働くところがない」があり、精神疾患のある方の雇用が進んでいない現状を反映している。また、全体で見たとき、経済的な困難さとともに、自分の健康面に対しての不安を感じている様子がうかがえる。
- ② 特に必要な支援制度については、3手帳とも「生活の場の確保（グループホームを含む）」が第1位となっている。本人だけでなく両親をはじめとする主たる介護者の高齢化が進む中で、親なき後の暮らしに不安を感じている状況がうかがえる。そのほか、前回調査でも上位であった「経済的負担の軽減」の割合が高い。
- ③ 複数回答（最大3つまで）回答できる形式としているため、全体で見たとき、上位3項目は前回同様「経済的負担の軽減」「相談支援体制の充実」「生活の場の確保」となった。

「人権・権利について」

■あなたは、現在または過去、次の権利侵害を受けたことがありますか

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	ない	297	54.8%
2	ある	164	30.3%
	不明・無回答	81	14.9%
	サンプル数（%ベース）	542	100.0%

■その時、あなたは、どのような対応をされましたか。※複数回答

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	親や家族に相談した	65	39.6%
2	泣き寝入りした（救済等をあきらめた）	51	31.1%
3	相談先がわからなかった	25	15.2%
4	その他	23	14.0%
5	学校の先生や施設の職員などに相談した	4	2.4%
6	弁護士などの専門家に相談した	4	2.4%
7	行政などの相談窓口で相談した	2	1.2%
	不明・無回答	4	2.4%
	サンプル数（%ベース）	164	100.0%

■成年後見制度の具体的な内容を知っていますか

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	知らない	380	70.1%
2	知っている	116	21.4%
	不明・無回答	46	8.5%
	サンプル数 (%ベース)	542	100.0%

■あなたは、成年後見制度を活用したいと思いますか

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	わからない	275	50.7%
2	今は必要としていないが、将来は活用したい	97	17.9%
3	活用したいと思わない	74	13.7%
4	活用したいと思う	31	5.7%
	不明・無回答	65	12.0%
	サンプル数 (%ベース)	542	100.0%

- ① 権利侵害を受けたことがある人が30.3%であり、そのうち相談先は39.6%が「親や家族」で一番高く、31.1%の人が「泣寝入りをした」と回答している。
- ② 「相談先がわからなかった」が15.2%とあり、必要な支援についても「相談支援体制の充実」が全体で第2位を占めており、体制の啓発、周知に課題がある。
- ③ 成年後見制度を知らない人が、前回より減少しているが依然として7割を超えており、制度の周知不足が課題となっている。

(3) 生活環境について

「外出の環境」

■あなたは、1週間に何日外出しますか

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	毎日	220	40.6%
2	1週間に数回	203	37.5%
3	めったに外出しない	76	14.0%
4	まったく外出しない	15	2.8%
	不明・無回答	28	5.1%
	サンプル数 (%ベース)	542	100.0%

■外出の同伴者はどなたですか

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	一人で外出する	202	40.5%
2	家族	190	38.1%
3	ホームヘルパーや施設の職員	85	17.0%
4	その他の人(ボランティアなど)	6	1.2%
	不明・無回答	16	3.2%
	サンプル数 (%ベース)	499	100.0%

■外出するときの目的は、何ですか。 ※複数回答

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	買い物に行く	350	70.1%
2	医療機関への受診	301	60.3%
3	通勤・通学・通所	270	54.1%
4	散歩に行く	129	25.9%
5	友人・知人に会う	104	20.8%
6	趣味・スポーツをする	62	12.4%
7	その他	49	9.8%
8	グループ活動に参加する	43	8.6%
9	訓練・リハビリに行く	40	8.0%
	不明・無回答	7	1.4%
	サンプル数 (%ベース)	499	100.0%

■外出する時の主な交通手段は何ですか。 ※複数回答

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	家族が運転する車	241	48.3%
2	自分が運転する車	165	33.1%
3	電車・バス（路線バス、送迎バスなど）	135	27.1%
4	徒歩	132	26.5%
5	自転車	87	17.4%
6	タクシー	73	14.6%
7	その他	70	14.0%
8	オートバイ	12	2.4%
	不明・無回答	9	1.8%
	サンプル数（%ベース）	499	100.0%

手帳別・児童（18歳以下） 小数第1位を四捨五入

■外出する時に困ることは何ですか

種別	1位	2位	3位	4位
身体	公共交通機関が少ない	乗り降りが困難	道路、駅、階段の段差	お金がかかる
	69	25	16	15
247	28%	10%	6%	6%
療育	公共交通機関が少ない	乗り降りが困難	切符の買い方	お金がかかる
	65	16	14	11
223	29%	7%	6%	5%
精神	公共交通機関が少ない	お金がかかる	周囲の目が気になる	切符の買い方
	48	21	14	6
134	36%	16%	10%	4%
児童	公共交通機関が少ない	乗り降りが困難	周囲の目が気になる	お金がかかる
	11	4	3	2
41	28%	10%	7%	5%
全体	公共交通機関が少ない	お金がかかる	道路、駅、階段の段差	乗り降りが困難

- ① 8割近い人が毎日、あるいは週数回は外出している。40.5%の人が1人で移動でき、38.1%の人が家族と同伴で外出している。反対に「めったに外出しない」「全く外出しない」人が合わせて16.8%ある。障害が理由によるもののほか、コロナ禍の影響による外出控えも考えられる。

- ② 「めったに外出しない」(76人)のうち、外出の目的が一番多いのは「医療機関への受診」(34人 44.7%)、また同伴者は家族が一番多く(34人 44.7%)、次に施設職員が多かった。(24人 31.6%)
- ③ 外出目的(複数回答)の第1位は「買い物」(70.1%)、第2位は「医療機関への受診」(60.3%)、第3位は「通勤・通学・通所」(54.1%)となっている。
- ④ 主な交通手段(複数回答)では、「家族が運転する車」(48.3%)、「自分が運転する車」(33.1%)、「電車やバス」(27.1%)、「徒歩」(26.5%)と前回同様の順位であった。
- ⑤ 外出する時に困ること(複数回答)を全体で見ると、「公共交通機関が少ない」「お金がかかる」「道路や駅の段差」と前回同様の順位であった。

「日中の過ごし方」

■平日の日中を主にどのように過ごしていますか

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	会社・自営(収入を得る仕事)	138	25.5%
2	福祉施設・作業所へ通所	130	24.0%
3	自宅で過ごしている	109	20.1%
4	入所している施設や病院で過ごしている	54	10.0%
5	専業主婦(主夫)をしている	30	5.5%
6	特別支援学校(小・中学部、高等部)に通っている	25	4.6%
7	医療機関に通院している	13	2.4%
8	その他	12	2.2%
9	小・中学校、高等学校に通っている	9	1.7%
10	保育所、こども園、療育を行う通園施設に通っている	5	0.9%
11	ボランティア団体など、収入を得ない仕事をしている	1	0.2%
12	大学、専門学校、職業訓練などに通っている	1	0.2%
13	不明・無回答	15	2.7%
	サンプル数(%ベース)	542	100.0%

平日の過ごし方の第1位は「会社・自営(収入を得る仕事)」、第2位は「福祉施設、作業所へ通所」、第3位は「自宅」となっている。上位2位までは前回と順位が逆転したが、3位までの内容は前回と同じであった。

(4) 保健・医療について

「求める医療体制」 手帳別・児童（18歳以下） 小数第1位を四捨五入

■医療を受ける上で困っていることはありますか

※複数回答

種別	1位	2位	3位	4位
身体	特にない	医療費の負担が大きい	交通費の負担が大きい	その他
	74	43	34	14
	247	30%	17%	14%
療育	特にない	医療費の負担が大きい	病院までの移動が困難	交通費の負担が大きい
	68	28	23	22
	223	30%	13%	10%
精神	特にない	医療費の負担が大きい	病院までの移動が困難	交通費の負担が大きい
	49	31	18	14
	134	37%	23%	13%
児童	交通費の負担が大きい	特にない	専門病院が近くにない	医療費の負担が大きい
	11	10	5	4
	41	27%	24%	12%
全体	特にない	病院までの移動が困難	交通費の負担が大きい	医療費の負担が大きい

■障害のある人の保健・医療に関しどのようなことが必要ですか

※複数回答

種別	1位	2位	3位	4位
身体	安心して地域で受けられる医療機関整備	特にない	在宅医療ケア体制	地域リハビリテーションの充実
	156	27	14	9
	247	63%	11%	6%
療育	安心して地域で受けられる医療機関整備	特にない	地域リハビリテーションの充実	早期発見・早期療育(治療)システム
	128	35	7	7
	223	57%	16%	3%
精神	安心して地域で受けられる医療機関整備	特にない	早期発見・早期療育(治療)システム	在宅医療ケア体制
	71	27	12	7
	134	53%	20%	9%
児童	安心して地域で受けられる医療機関整備	特にない	早期発見・早期療育(治療)システム	在宅医療ケア体制 乳幼児健診と育児相談
	25	5	4	2(同数)
	41	61%	12%	10%
全体	安心して地域で受けられる医療機関整備	在宅医療ケア体制	特にない	早期発見・早期療育(治療)システム

- ① 医療での困っていることについて、医療費や交通費の負担の大きさの回答が多く見られた。
- ② 全体も障害種別においても「医療に関して必要なこと」の第1位は「安心して地域で医療を受けられる医療機関の整備」であった。

(5) 災害支援について

「求める支援体制」 手帳別・児童（18歳以下） 小数第1位を四捨五入

■災害発生時に支援してほしいこと何ですか

※複数回答

種別	1位	2位	3位	4位
身体	災害情報を知らせてほしい	必要な治療と薬の確保	特にない	避難場所までの避難を支援してほしい
	66	61	34	26
247	27%	25%	14%	11%
療育	災害情報を知らせてほしい	必要な治療と薬の確保	特にない	避難場所までの避難を支援してほしい
	56	42	31	23
223	25%	19%	14%	10%
精神	必要な治療と薬の確保	災害情報を知らせてほしい	特にない	避難時の声かけ
	45	44	19	5
134	33%	32%	14%	4%
児童	災害情報を知らせてほしい	必要な治療と薬の確保	特にない	避難場所までの避難を支援してほしい
	11	9	5	4
41	27%	22%	12%	10%
全体	必要な治療と薬の確保	災害情報を知らせてほしい	避難場所までの避難を支援してほしい	避難場所の設備の整備

- ① 全体第1位は前回同様「必要な治療と薬の確保」であり、障害の状況の設問で「服薬管理」が必要な人が医療的ケアの中で1番高い結果となっており、障害と医療が切り離せない状況がうかがえる。
- ② どの障害種別でも「災害情報を知らせてほしい」「必要な治療と薬の確保」が上位を占めている。

(6) 情報・コミュニケーションについて

「求める支援体制」 手帳別・児童（18歳以下） 小数第1位を四捨五入

障害のある人の情報収集・コミュニケーションに関しどのようなことが必要と思いますか

種別	1位	2位	3位	4位
身体	相談支援体制の整備	個々の障害にあった情報提供	特にない	手話通訳等
	126	44	36	18
	247	51%	18%	15%
療育	相談支援体制の整備	特にない	個々の障害にあった情報提供	手話通訳等
	132	36	14	5
	223	59%	16%	6%
精神	相談支援体制の整備	個々の障害にあった情報提供	特にない	手話通訳等
	66	30	21	6
	134	49%	22%	16%
児童	相談支援体制の整備	個々の障害にあった情報提供	特にない	手話通訳等
	22	7	6	2
	41	54%	17%	15%
全体	相談支援体制の整備	特にない	個々の障害にあった情報提供	手話通訳等

どの障害種別も「障害のある人の立場に立った相談支援体制の整備」が第1位であった。「個々の障害にあった情報支援の充実」についても前回（13.0%）を上回る割合の回答があった。

(7) 雇用・就業について

「就業の状況」

■あなたはふだん仕事をしていますか。※18歳以上

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	会社に勤め仕事をしている	108	22.4%
2	福祉施設・作業所に通って働いている	104	21.6%
3	病気だから仕事はしていない	54	11.2%
4	障害が重くて仕事はしていない	46	9.5%
5	年をとっており仕事はしていない	33	6.8%
6	その他	31	6.4%
7	自営している	15	3.1%
8	家族でやっている仕事を手つだっている	10	2.1%
9	就職活動しているが採用されない	6	1.2%
10	機能訓練など自立のための「訓練」を行っている	4	0.8%
11	地域活動、ボランティア活動などに参加している	3	0.6%
12	学校に通っている	2	0.4%
	不明・無回答	67	13.9%
	サンプル数 (%ベース)	483	100.0%

■現在仕事をされている方は、どんな勤務形態で仕事をされていますか

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	会社のパート、アルバイト	58	12.0%
2	会社の正社員、従業員で他の職員と勤務条件に違いはない	50	10.4%
3	その他	48	9.9%
4	自営(農林水産業を含む)	15	3.1%
5	正職員で、短時間勤務などで障害者配慮がある	14	2.9%
6	家族でやっている仕事を手つだっている	10	2.1%
7	内職(頼まれた仕事を家でやっている)	1	0.2%
	不明・無回答	287	59.4%
	サンプル数 (%ベース)	483	100.0%

■現在の仕事をどんな方法で見つけましたか

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	その他	69	14.3%
2	公共職業安定所（職安、ハローワーク）	45	9.3%
3	親戚、知り合いに見つけてもらった	31	6.4%
4	学校で見つけてもらった	22	4.6%
5	新聞チラシなどから自分で見つけた	11	2.3%
6	職業訓練施設に見つけてもらった	11	2.3%
	不明・無回答	294	60.8%
	サンプル数（%ベース）	483	100.0%

■働く上でどのような条件が必要ですか 手帳別・児童（18歳以下）小数第1位を四捨五入
※複数回答

種別	1位	2位	3位	4位
身体	障害に合った仕事であること	障害に合った勤務条件であること	特にない	賃金が妥当であること
	73	32	16	13
	30%	13%	6%	5%
療育	障害に合った仕事であること	障害に合った勤務条件であること	周囲の理解があること	賃金が妥当であること
	71	13	10	8
	32%	6%	4%	3%
精神	障害に合った仕事であること	障害に合った勤務条件であること	賃金が妥当であること	特にない
	48	16	9	8
	36%	12%	7%	6%
全体	障害に合った仕事であること	障害に合った勤務条件であること	周囲の理解があること	賃金が妥当であること

- ① 普段の就業については、「会社に勤め仕事をしている」が第1位（22.4%）、第2位は「福祉施設や作業所に通っている人」（21.6%）、第3位は「病気だから仕事はしていない」（11.2%）となった。
- ② 勤務形態については、「会社のパート、アルバイト」（12.0%）が第1位であった。
- ③ 働く上での条件では、すべての障害で「障害に合った仕事であること」が第1位であった。全体で見ると、上位4位までは、前回同様の結果となった。

(8) 教育・育成について

「教育、進路の状況」

■あなたが通園・通学している学校・園は、次のどれですか

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	特別支援学校	24	61.5%
2	小・中学校、高等学校	11	28.2%
3	保育園・こども園	4	10.3%
4	専門学校	0	0.0%
5	その他	0	0.0%
	不明・無回答	0	0.0%
	サンプル数 (%ベース)	39	100.0%

■障害のある児童・生徒の就学環境として望ましいと思うものはどれですか

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	特別支援学校において、専門的な教育やサポートが得られる環境	17	43.6%
2	普通学校の特別支援学級において、できるだけ専門的な教育やサポートが得られる環境	11	28.2%
3	普通学校において、できるだけ他の児童・生徒と同様の教育やサポートが得られる環境	7	17.9%
4	その他	4	10.3%
	不明・無回答	0	0.0%
	サンプル数 (%ベース)	39	100.0%

■学校・園生活を送る上での問題点はどれですか

※複数回答

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	通園・通学が大変	13	22.0%
2	特にない	10	16.9%
3	児童・生徒（またはその保護者）の理解が得られない	8	13.6%
4	学習サポート体制が不十分	6	10.1%
5	学習・学校生活に必要な設備が不十分	5	8.5%
5	進路指導が不十分	4	6.8%
5	その他	4	6.8%
8	家族の同伴を求められる	3	5.1%
9	校内・園内で情報の共有が図られていない	2	3.4%
10	サポートブック(支援ファイル「にじいろノート」などが活用されていない	2	3.4%
11	福祉教育が不十分	1	1.7%
12	校内・園内での介助が不十分	0	0.0%
	不明・無回答	1	1.7%
	サンプル数 (%ベース)	59	100.0%

■学校（中学校（部）、高校（高等部））卒業後の進路について、どのような考えですか

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	共同作業所など訓練や作業指導を受けられるような施設に通わせたい（通所施設など）	12	30.8%
2	企業などへ就職させたい	8	20.5%
3	上級学校に進学させたい	7	17.9%
4	その他	4	10.3%
5	入所して、訓練などを受けさせたい（入所施設）	2	5.1%
6	職業訓練施設で訓練を受けさせたい	2	5.1%
	不明・無回答	4	10.3%
	サンプル数 (%ベース)	39	100.0%

■あなたは、学校教育終了後の進路について、どのような施策を望みますか

※複数回答

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	一般企業（会社など）の障害者雇用の拡大	14	35.9%
1	障害の特性に応じた作業所などの充実	14	35.9%
3	官公庁（市役所など）の障害者雇用の拡大	9	23.1%
4	障害者就業・生活支援センターの充実	8	20.5%
5	わからない	7	17.9%
6	レクリエーション・学習活動を行う施設の充実	5	12.8%
7	入所施設の充実	5	12.8%
8	職業訓練機関の整備	1	2.6%
9	その他	1	2.6%
	不明・無回答	2	5.1%
	サンプル数（%ベース）	39	100.0%

■あなたは、障害のある児童・生徒の教育・育成に関し、どれが必要であると思いますか

※複数回答

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	卒業後の就労を見据えた教育の充実	20	51.3%
2	児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実	15	38.5%
3	障害への理解を深めるため、すべての児童・生徒に対する人権教育の推進	8	20.5%
4	教育・保健・医療・福祉などの関係機関の連携	8	20.5%
5	早期発見・早期療育システムの確立	6	15.4%
6	障害のある児童・生徒の保護者に対する精神的な支援	5	12.8%
7	発達・子育て相談窓口の充実	3	7.7%
8	スロープなど、児童・生徒の障害に対応した施設整備	2	5.1%
9	その他	2	5.1%
10	特になし	2	5.1%
	不明・無回答	1	2.6%
	サンプル数（%ベース）	39	100.0%

就学環境においては、障害特性にあった専門的な教育サポートへのニーズが高い。卒業後においては一般企業や公務員での障害者雇用の拡大や、障害特性に応じた作業所の充実を望む声が多い。

(9) 介助者について

「介助者の状況」

■介助者の方の年齢（令和4年4月1日現在）

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	70～79	35	15.4%
2	60～69	34	14.9%
3	50～59	32	14.0%
4	40～49	21	9.3%
5	30～39	9	3.9%
6	80～89	7	3.1%
7	20～29	1	0.4%
8	90 以上	1	0.4%
	不明・無回答	88	38.6%
	サンプル数 (%ベース)	228	100.0%

■介助を始めてどれくらいですか

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	40 以上	25	11.0%
1	5～9	25	11.0%
3	20～29	22	9.6%
4	0～19	21	9.2%
5	0～4	20	8.8%
6	30～39	11	4.8%
	不明・無回答	104	45.6%
	サンプル数 (%ベース)	228	100.0%

■介助についてどのように感じていますか

※複数回答

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	心身が疲れる	74	32.5%
2	自分の時間が持てない	42	18.4%
3	経済的負担が大きい	39	17.1%
4	仕事・家事が十分にできない	33	14.5%
5	仲間・友人ができた	27	11.8%
6	生きがい・充実を感じている	26	11.4%
7	わからない	24	10.5%
8	その他	11	4.8%
	不明・無回答	96	42.1%
	サンプル数 (%ベース)	228	100.0%

■介助に関し、主に相談している人は、どなたですか

※複数回答

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	家族・親戚	115	50.4%
2	職場・学校・通所先（施設など）	63	27.6%
3	友人・知人	40	17.5%
4	障害者相談員	22	9.6%
5	ケアマネジャー	20	8.8%
6	医療機関（病院、診療所など）	18	7.9%
7	市役所の窓口（障害者福祉課など）	18	7.9%
8	市役所以外の相談機関（相談支援事業所など）	17	7.5%
9	障害者団体・支援団体	10	4.4%
10	専門機関（保健所など）	10	4.4%
11	ホームヘルパー	8	3.5%
12	その他	7	3.1%
13	相談相手がいない	5	2.2%
14	相談ごとはない	5	2.2%
15	民生・児童委員	1	0.4%
	不明・無回答	90	39.5%
	サンプル数 (%ベース)	228	100.0%

介助について相談している人は家族・親戚が前回同様圧倒的に多い。介助については「心身が疲れる」が前回同様第1位。ついで、「自分の時間が持てない」と「経済的負担が大きい」となっている。

(10) 障害福祉施策について

■障害者福祉を進めるためどのようなことが必要とされますか

※複数回答

順位	カテゴリ	件数	(全体)%
1	公的年金、手当の増額など、所得保障を充実してほしい	258	47.6%
2	社会が、障害者に理解と関心をもってほしい	238	43.9%
3	障害者の雇用促進をしてほしい	167	30.8%
4	道路、公園などの公共施設、建物、乗り物が障害者の利用しやすいように整備してほしい	149	27.5%
5	グループホーム、入所施設をもっと増やしてほしい	124	22.9%
6	障害の程度に応じた職業訓練が受けられるようにしてほしい	98	18.1%
7	障害者が安心して入居できる公営住宅を整備してほしい	85	15.7%
8	障害の状況に応じて必要な情報が得られるようにしてほしい。特に災害時等の情報入手や発信体制を整備してほしい	84	15.5%
9	医療体制を充実してほしい	75	13.8%
10	市立病院に常勤医師の配置やデイケアの開設など精神科体制を充実してほしい	60	11.1%
11	生活支援センターなど相談窓口を充実してほしい	59	10.9%
12	日常生活の中で、介助体制の充実を図ってほしい	56	10.3%
13	スポーツ、サークル、文化活動に参加しやすいよう移動手段（送迎バス等）の支援をしてほしい	51	9.4%
14	医師、専門職員などによる訪問指導体制を強化してほしい	37	6.8%
15	専門的な機能回復訓練が受けられる施設を建設してほしい	29	5.4%
16	結婚相談事業を進めてほしい	21	3.9%
17	医療的ケアが必要な障害児の短期入所施設を整備してほしい	20	3.7%
18	補装具、日常生活用具の内容周知と取扱い研修の充実を図ってほしい	17	3.1%
19	その他	17	3.1%
20	市立病院の人工透析病床を充実してほしい	12	2.2%
	不明・無回答	66	12.2%
	サンプル数（%ベース）	542	100.0%

- ① 全設問共通し、経済的負担の軽減のニーズが高いことから「年金や手当等の所得保障の充実」が第1位となっている。
- ② 「障害者に理解と関心をもってほしい」が第2位であり、雇用をはじめ、障害を社会的モデルとしてとらえる必要性を感じる結果となった。